

学校教育課だより

かけはし

「身を乗り出す授業」

教育監兼学校教育課長兼教育指導センター所長

鳥越 雅幸

六月から七月にかけて、静東教育事務所地域支援課による定期訪問が本格的に実施されています。多い日は、市内で三校同時実施の日もあります。指導案集も毎日のように届いています。できるだけ指導案に目を通すようにしています。以前、指導案は学校における事業企画書だと聞いたことがあります。それは、指導案に学校の授業観が表れるからです。授業観は単元の構想や子どもの実態の把握、指導構想

における子どもの思考の流れ、本時の目標の適切な設定、学習課題がその前後において子どもの自然な思考の流れに沿って設定されているかなどに表れてきます。身に付けた力を明らかにし、子どもの実態を丁寧にみとり、子どもの思考の流れを構想すること、これは「未来をひらく子ども」で静岡県が大切にしてきた「学校の主役は子どもである」という子ども中心主義に基づくものです。

学校教育課だより
「かけはし」
【第 4 号】
平成 28 年
7 月 20 日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

資料を提示したり子どもたちとは異なる視点を提示したりします。

十年前に高根中学校では、メディアリテラシーの指定研究に取り組み、「身を乗り出す授業」を目指す授業に揭げていました。当時の研究紀要には次のように書かれています。

「一つのメディアからの情報がすべてではない」という基本認識の下、①教師は、「前提の問い直しを促す発問（工夫）を投げかける。②触発された子どもは、「あれ、変だな」「本当にそうなのか？」と不足感をいただき、自ら問いをもつようになる。③問題解決のため、様々なメディア（ここでいうメディアには教師、友達も含まれると思われる）にかかわり、自らの問いの答えを探ろうとする。④様々なメディアにかかわって判断し、自信をもつて仲間が発信する。⑤仲間同士（メディア）が発信しあつた、それぞれの発言が相互に影響し合い、インタラクティブに高め合う。

十年たつてもこの研究は色あせていません。むしろ、今こそ求められる授業の姿だと思えます。

子どもたちが、「身を教育指導センター訪問記① 乗り出す授業」を目指す

学級活動と道徳教育

し、教師修行は続きます。

学級活動と道徳教育は、人としての生き方を学ぶ大切な教育活動であり、その取組には担任の学級づくりに対する考え方が顕著に表れます。従って、週一時間の学級活動と道徳の時間は、学級経営を支える重要な要素と言えるのではないのでしょうか。

そこで、教育指導センターでは、学級担任をしている対象の先生方に、年間に少なくとも一回は学級活動と道徳の授業を参観・指導させていただくことをお願いしています。今回は、四月からこれまでの小学校の訪問記録の中から、学級活動（1）の意欲的な実践と、道徳教育の取組を紹介いたします。

〈学級活動（1） 高学年〉

御殿場小学校五年三組は、担任萩倉康先生が話し合い活動を学級経営の核とし、年度当初から学級会の充実に取り組んでいます。

四月、司会者も発言者も手元に「学びの御小スタイル」のファイルを持ち、話合いの進め方や話し方、聴き方を確認しながら、まずは形の整った学級会が展開されました。

二か月後の六月、議題は「学級旗について」です。「どんな思いを学級旗にしたいか」と学級へのみんなの思いが途切れなく出てきます。「その思いをどんなデザインにするのか」では、シートに書かれた案を共有するために、「書画カメラでテレビに写そう」ということになりました。子どもの手で会議は運営され、各自がのびのびと自分の思いを語りま

す。また、友だちの考えをしっかり理解しようとしています。集団で話合うことの意義と良さが感じられる学級会でした。

学級会の名称は、学級目標から「ひまわり会議」。司会団は、議題に関係する委員会が担当。事前事後の計画委員会の実施。学級会の掲示コーナー。途中の助言や終末の教師の話等々、多くの工夫と手立てを通して育っている姿です。

話合いの質的向上や意見集約、教師の出のタイミンングといった課題を克服しつつ成長

していく学級が楽しみです。

〈学級活動(1) 低学年〉

御殿場市・小山町授業研究会後、東小学校一年二組では、初めての学級会が開かれました。一人司会団の平井麻美子先生の首には、司会や記録の名札メダルがかかっています。子どもたちは興味津々で「次はみんなにやってみてもらいます」の言葉に歓声が上がります。

その後は、議題や小柱等のカード提示と共に、話合いの仕方を丁寧に指導していきま

した。本時は、班単位で四人の話合いから練習しましたが、それでもトラブル続出です。

まずは始めの一步を踏み出しました。こうした実践を重ねて、話合いの力と主体性が育まれていくことでしょう。

〈道徳〉

教室に道徳コーナーを設けている学級が増えていきます。高根小学校は「心のあしあと」として学校全体で取り組んでいます。二年三組石坂和加奈先生は、授業で用いたイラストに道徳的価値を分かりやすい短い言葉で書いて掲示しています。なぜか、授業を思い出して優しい気持ちになれる気がする上手な配置です。価値

を一時間の授業に止めず、日常につなぐ工夫が生きています。【指導員 岩田京子】

六月に行われた御殿場市・小山町授業研究会は、本年度で十年の節目を迎えます。この授業研究会が行われるきっかけと、今日に至るまでの経緯について紹介します。

平成十九年度、県全体の教育行政の事務局再編に伴い、東部教育事務所学校教育課（現静岡教育事務所地域支援課）の学校訪問指導が縮小することとなりました。このことにより、各市町教育委員会及び各学校に教員の授業力向上の研修体制の構築が求められました。授業について熱く語り合うことで、子どもたちの確かな学力の育成、北駿教育の伝承を目指し、六月と十一月の二回授業を公開しました。

翌年の平成二十年度に、駿東地区教科等指導リーダー授業研究会との兼ね合いから、年間二回実施していた本研究会を、六月の一回のみとしました。

平成二十二年度より、地区リーダー研究会との住み分けを明確にしつつ、本研究会は

御殿場市・小山町

授業研究会の歴史

魅力ある授業ができる教員づくり、集団づくりのできる教員を育成することを目指して、新方式で実施しました。

この背景には、北駿の教員の年齢構成の変化、さらに県教育委員会の教員研修体制の見直し等がありました。こうした学校環境や県の教員研修体制の変容があっても、地域や学校に根ざした自立的な授業研究会の在り方を追求できる体制の構築を目指しました。

こうした発想から、校内の研修組織・学年部(団)が中心となり、授業者の授業準備をサポートすることにより、身近な同僚教師との連携強化を図ることの重要性を再確認できる研修会の持ち方を模索しました。併せて、教員間で教科の枠を越えた議論が展開されるようにするために、平成二十二年度は「道徳」を、平成二十三年度は「特別活動」を公開し、当初の計画に沿って平成二十四年度は「教科」を中心と

した授業を公開することで、三年間で「道徳」「特活」「教科」(話合い活動や課題解決などを切り口とした共通のテーマによる授業)のサイクルが一巡しました。

そこで一年間の研修計画の中で、本研究会の位置付けが明確になるよう再検討し、平成二十五年から、「学習指導力の向上」と「学習集団づくり」に視点を置く研修の方向性が示されました。併せて、研修実践の窓口を「道徳」と「特別活動」の隔年実施とし、特別活動は学級活動の授業を公開してきました。

窓口を「道徳」と「特別活動」に絞っているのは、『ほとんど教員が行う授業であり、教科の特質にとらわれずに共通の視点で「学習集団づくり」について考えることができる』『学習規律、人権感覚、居場所などがポイントとなる「学習集団」を成り立たせる基盤を作るためには、道徳と特別活動の目標を意識する必要があり』『教科の習熟度が大きく関わらないため、子ども全員が同じ土俵で参加可能であり、「学習集団づくり」がどのように行われているか分かりや

すい』の三つが主な理由です。
本年度、学級会等を公開し
ていただいた先生方をはじめ、
参画していただいた皆様方に
改めて感謝申し上げます。